

第46回 岡田地区新春サークル 発表会

2月4日・5日

岡田公民館等で活動するサークルや研究会などの34団体が、2日間にわたって活動の成果を展示やステージで発表し、館内に彩りと歓声をもたらしました。

今年初出展となったのは、女鳥羽中学校の生徒による美術作品と、健康づくり推進員による健康チェックコーナーです。北部地域包括支援センターは昨年に続き「認知症つながり相談会」を設けました。

また、子どもたちの参加を願って行った新しい試みが「クイズラリー」です。各部屋の展示物に関するクイズが出され、子どもたちが公民館内を回り、挑んでいました。

ステージ発表は4日の午後行われ、会場は満席でした。「岡田童謡唱歌を楽しむ会」、「伊藤まゆみさんソプラノ独唱」、「信州大学吹奏楽団」、「太極拳はまなす」、「岡田太鼓連」、「岡田まちおこし協議会」、「岡田歴史研究会」、「岡田地区地域づくりセンター」の9つのサークル等が日頃の練習や研究の成果を発表しました。それぞれの演目が終わると、観客席から「アンコール！」の声がかかるほどの盛り上がりを見せていました。

館報 おがた

こんにちは！
明るく声かけ安心社会



①陶芸クラブ
個性のかつ生活にいかせる陶芸作品



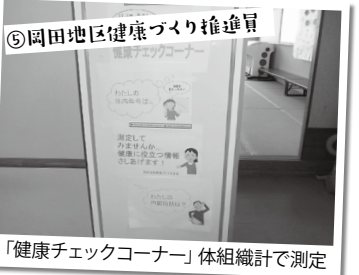
②手工芸サークル
わら、竹、つるなど自然素材を使った実用的作品



④切り絵紙芝居
地域に伝わる民話を紙芝居に



③フラワーアレンジメント
幅広い年齢の方々が楽しく活動しています



⑤岡田地区健康づくり推進員
「健康チェックコーナー」体組織計で測定



⑥岡田小学校
手芸クラブの手縫いの袋物や、工作クラブの笛や竹とんぼ



⑦岡田太鼓連
テンポがどんどん早くなる曲。練習のたまものです



⑧岡田歴史研究会
昨年刊行した『岡田再発見』は歴史研究会の成果!!



⑨岡田地区地域づくりセンター
「特殊詐欺防止」啓発の寸劇



⑩女鳥羽中学校
1~3年生の美術作品。精緻なデザインが目をひきました

休憩時間には恒例の「三水会」の皆さんによる絶品手打ち蕎麦がふるまわれ、参加者は舌鼓を打っていました。

講座室では、昨年完成した「わがまち再発見（岡田地区版）」のDVD上映も行われていました。希望者は岡田公民館で入手できますので（1枚 500円）お問い合わせください。

新春サークル発表会は地区の恒例イベントとして毎年行われています。来年の発表も楽しみです。見るだけでなく発表する皆さんの方が、「苦勞はあってもおもしろいのでは」と思えてきました。入りたいサークル、仲間を募って始めたい趣味などあれば、どんなことでも気軽に公民館に相談したらいかがでしょうか。公民館とそこに集う人々への親しみが増した発表会でした。

(取材 中本・小林)



学生スケート大会発祥の地記念碑

松本市街地から国道143号線を北に向かつて行くと、山浦地区の入り口に「六助池」がある。六助池は、田溝池、塩倉池などと共に岡田地区の田畑を支えてきたかんがい用ため池である。六助池に赴いてみると、東岸に「学生スケート大会発祥の池」と刻まれた石碑が建っている。なぜ六助池で第1回の学生スケート大会が開催されたのか調べてみた。

大正14年に全国学生氷上競技連盟主催で第1回公式大会が諏訪湖において開催される予定であったが、その年はあいにくの暖冬のため諏訪湖が結氷せず、

岡田ほっとニュース

山 浦

八方手を尽くして探し当てた代替池が、暖冬に関係なく山陰で毎年結氷する旧制松本高等学校（現信州大学）氷滑（スケート）部のホームゲレンデであった「六助池」である。

この大会には全国から7校が参加した。スピード競技は行われなかったが、フィギュア、アイスホッケーの2競技が行われ熱戦が繰り広げられたようである。アイスホッケーの決勝戦では、早稲田大学と旧制松本高等学校が戦い、残念ながら地元旧制松本高等学校は準優勝であった。

また、六助池の南岸の山には、「六助稲荷」がある。このお稲荷様は、桔梗ヶ原の玄蕃之丞筑南の現之助、岡田の六助と呼ばれた松本三狐の一つである。怪異な狐であったが、人知を超える何かを伝えてくれた、五穀の神、お稲荷様の使いでもあった、といわれている。六助池東岸には、六助稲荷社口の看板があり、石段の山道を登っていくと、木の朱塗り石造りの鳥居が待ち構え、山腹には社殿が現存している。

現在の六助池は、松本トンネル開通工事により、以前の2/3の規模になり、第1回の学生スケート大会が開催されたことは、石碑以外面影を偲ぶのが難しくなった。

（取材 宇留賀賢）



岡田地区 防災訓練

— (初) 要援護者避難所開設訓練 —

3/4

3月4日(日)に開催された岡田地区防災訓練において、今回初めて要援護者避難所開設を想定した訓練が実施されました。

要援護者の避難訓練を実施するにあたっては、北條由美乃健康づくり推進委員長を中心に避難所想像する事からはじまりました。

車イスが必要な方や、妊婦さん、寝たきりの方等、いくつものパターンを想定し、受け入れの準備

必要なものを把握していききました。訓練当日、家族に付き添われた要援護者は、福祉ひろばに身を寄せ、「要援護者名簿」をもとに受付をすませました。

実際やってみて感じたことを北條委員長に伺うと、「いざその時になり、実際はどういう方が避難されてくるかわからない。もっと色々な方の想定パターンが必要。誘導の仕方ひとつとっても、ちょっとしたコツがい



仮設応急担架による搬送訓練

仮設応急担架による搬送訓練

各地域でお互い助け合うための学習機会を作ってほしいものだと感じた、今回の訓練でした。

（取材 日比）

この頃、人や場所の名前が出てこない。テレビに出てくる女性グループの顔が皆同じに見え、クイズ番組も答えが出てから、そう、それだ！となる。二階に何か取りに行けば、あれ？何を取りに来たのだ？仕方なくまた一階に戻り思い出す。買い物で忘れないようにリストを書いていたのに、そのメモをわすれる。手紙を書こうとすれば漢字が思い出せない。「そんなことも忘れたのか」と夫に言われ、「自分だって同じじゃない！」二人してしばらく頭の中

生活雑記

脳内活性化

塩倉 O・S

引き出しをひっかきまわし、思いつく時とそうでない時、スマホに頼るときもあればそのまますっかり忘れていたときもある。まずい！認知症が始まっているのか？日本人高齢者の四人に一人は認知症か又はその予備軍

を書こうか悩み、一回書いて読み直し、書き直しを何度か繰り返してみた。内容を考え、文章におこしていく事が、自分にとってこんなに大変なことだったのかと、少し落ち込んだ。しかし、普段こんな長い文を書くことがない生活の中、これは本当にいい頭の体操になった。呆けないためにもこれを機会に、下手でもいいから新聞などに投稿でもしてみようか。書き終わった後、何か楽しみをひとつ見つけたようなウキウキした気分になった。

